



若松小だより

令和6年度12月号 No.9
令和6年11月29日
府中市立若松小学校
校長 生井 信太郎

自ら考える子 思いやりのある子 たくましい子

「話すこと・聞くこと」の充実

副校長 星芝 卓郎

先月、今月とオンラインの全校朝会で実施した活動を紹介します。

まず、低・中・高学年向けの課題に、1分間、1人で集中して取り組みます。自分が思いつくものをできるだけたくさんワークシートに書いていきます。先月の課題は次の通りです。

- ・低学年：どうぶつえんにいそうなどうぶつは？
- ・中学年：口をふくむ漢字は？
- ・高学年：にかくれている漢字は？

次に、その課題を同じ班の友達と一緒に考えます。他の班の人には聞こえないように気をつけて相談します。1人ではなかなか思いつかなかった人も、友達の考えを聞くことで取り組み方が分かり、見通しがもてるようになります。よく分からなくてやる気が出なかった子も、ここで少し取り組む意欲がわいてきます。

その次は、クラスを半分に分け、Aチーム、Bチームとします。立ち歩き、自分と同じチームの人と自由に相談して考えます。この段階に来ると、ワークシートの表面はいっぱいになってしまい、裏面に書き込む子も見られています。その日、廊下ですれ違う子供たちから、「裏面まで書けたよ！」「30こ以上書けたよ！」等と声をかけられ、活動が充実した様子が窺えました。

本校では今年度、国語科の「話すこと・聞くこと」の学習を校内研究のテーマとし、その指導方法について学び、協議してきました。研究授業では、低学年はペアで様々な子と意見交換をすること、中学年は学級全体で話し合うこと、高学年はグループで話し合い、よりよい意見になるようにまとめていくことに取り組みました。また、各教室においても、活発にグループで話し合う子供たちの姿がたくさん見られてきました。

私たちが子供の頃は、学校の先生の話をよく聞いて勉強を教えてもらい、習ったことを定着させる努力をしてきました。しかし、今は学び方が少し変わってきています。当時学習を進めるには、学校や塾で対面で先生に教えてもらうか、教科書や参考書を読むしかなかったかと思いますが、今はインターネットを活用して調べることや、オンデマンドの動画やオンラインの授業を見ることができます。そして、得た知識を活用して友達と交流し、新しい発見や豊かな発想を生み出したり、課題解決を図ったりしていきます。子供たち一人一人の頭の中をよく働かせ、将来生かしていける力を育むために、先生が教えるのではなく、子供自身が学ぶ、という学び方に変わってきたのです。

学校では、授業をよりよく改善し、子供たちが主役となる授業づくりに励んでいます。これからも、友達と話し合うことで自分の考えが広がったり、友達の役に立ったりする喜びを実感できるような「話すこと・聞くこと」の活動を充実させ、子供たちの力をしっかりと育んでいきます。

[illegible]